

シンポジウム | 特別講演

多職種連携シンポジウム

地域包括ケアシステムに関わるための第一歩 ～成功と失敗に学ぶ多職種連携～

座長:高野 直久(日本歯科医師会 常務理事)、渡部 芳彦(東北福祉大学総合マネジメント学部)

Sat. Jun 23, 2018 9:50 AM - 12:00 PM 第1会場 (8F 大ホール)

【高野 直久先生略歴】

1982年 東京歯科大学卒業

1986年 東京歯科大学大学院修了(歯学博士)

1986年 東京歯科大学口腔外科学第2講座助手

1992年 高野歯科医院院長

1992年 東京歯科大学口腔外科学第2講座非常勤講師(現在:顎顔面口腔外科学講座)

2005年 (社)東京都歯科医師会理事, (社)東京都学校歯科医会理事

2016年 社会歯科学会理事, 日本顎関節学会監事

2016年 (公社)日本歯科医師会常務理事, (公財)8020推進財団常務理事

2017年 (公社)日本歯科医師会常務理事, (公財)8020推進財団専務理事

日本口腔外科学会専門医, 日本顎関節学会指導医・専門医, 日本口腔顔面痛学会指導医, 日本公衆衛生学会専門家, 労働衛生コンサルタント, 介護支援専門員

【渡部 芳彦先生略歴】

1996年 東北大学歯学部卒業

2000年 東北大学大学院歯学研究科修了(高齢者歯科学)

2000年 東北福祉大学感性福祉研究所PD研究員

2002年 東北福祉大学嘱託助手

2004年 東北福祉大学講師

2004～2005年 トゥルク大学歯学部(フィンランド)客員研究員

2009年 東北福祉大学准教授

2018年 東北福祉大学教授

日本老年歯科医学会 認定医・専門医・指導医

日本老年歯科医学会 多職種連携委員・在宅歯科診療等検討委員・代議員

【抄録】

これからも歯科医療を担い続ける者としては、従来の医療モデルから脱却し、対象となる人々の生活や生き方に関わる専門職チームの中で、その在り方を考えてみる必要がある。それこそが地域包括ケアシステムの構築であり、地域ごとに異なるリソース(社会資源)を把握し、多職種とのコミュニケーションの積み重ねにより実現され得る。

本シンポジウムでは、まず基調講演により平成30年度の医療・介護保険同時改定の内容から、歯科医療関係者が目指す方向性を確認する機会を得たい。そしてその上で歯科医師、歯科衛生士、管理栄養士の3名のシンポジストにご登壇いただいて、それぞれの実践経験に学び、地域包括ケアの実現に向けた第一歩として、われわれが何を行うべきかの示唆を得たいと思う。特に今回は、事前の会員アンケートや当日会場でのリアルタイムのアンケートを行うことで、活発なディスカッションを展開できればと思う。

[S5-3]地域における食支援と多職種連携

- 歯科医師の立場から -

○細野 純¹ (1. 細野歯科クリニック院長/公益社団法人日本歯科医師会地域保健委員会副委員長)

【略歴】

1975年 日本歯科大学卒業，虎の門病院歯科専修医

1977年 虎の門病院歯科

1980年 東京都大田区に細野歯科クリニック開業

1994年～2002年 東京都大田区大森歯科医師会理事

2001年～2015年 東京都歯科医師会高齢者保健医療常任委員会委員長

2009年～2015年 東京都歯科医師会地域保健医療常任委員会委員長

2013年～2015年 日本歯科医師会地域保健委員会委員

2015年～2017年 日本歯科医師会地域保健委員会ワーキングメンバー

2017年～ 日本歯科医師会地域保健委員会副委員長

所属学会：日本老年歯科医学会，日本在宅医学会，日本静脈経腸栄養学会

地域包括ケアシステムにおける歯科診療所の役割として，口腔健康管理を外来診療から在宅歯科医療としても継続的に提供することが求められている。在宅歯科医療は，主に生活の場において，患者，家族に寄り添う歯科医療を提供し，最期まで口腔機能の維持と食支援を継続することでもある。地域における食支援は，医学管理，栄養管理の下，多職種，異業種も含めた連携を前提に，入院医療から在宅医療の各フェーズにおいて「口から食べること」を支える「地域づくり」でもある。多職種連携は，地域の医療・介護資源の把握とともに，生活者の視点を持ちながら，患者を中心に，家族などの主介護者との信頼関係が基本であり，各職種の役割を理解し「顔の見える関係」から「信頼できる関係」への醸成が大切である。また，連携推進には，行政や地区歯科医師会の役割も大きいと考える。東京都大田区での取り組みなどから，多職種連携の課題について考えてみたい。